

2025 年 10 月 22 日

ウェザーニューズ、今夏のゲリラ雷雨の発生回数と特徴を発表

2025 年のゲリラ雷雨は全国で約 8.8 万回発生、異例の早さの梅雨明けと猛暑で 7 月から多発
～ゲリラ雷雨による想定外の出費が過去最高額に 東京では「浸水被害」が顕著～

株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉県美浜区、代表取締役社長:石橋 知博)は、2025 年夏のゲリラ雷雨(注 1)の発生回数と、「ゲリラ雷雨まとめ調査」の結果を発表します。

✓ポイント

1. ゲリラ雷雨の発生回数は全国で合計 88,100 回、昨年比・例年比ともに約 1.1 倍で同程度
2. 発生ピークは 8 月下旬で、日中の昇温や湿った空気の影響で大気の状態が不安定に
3. 全国の 2 人に 1 人がゲリラ雷雨に遭遇、想定外の出費が 2,939 円で過去最高額

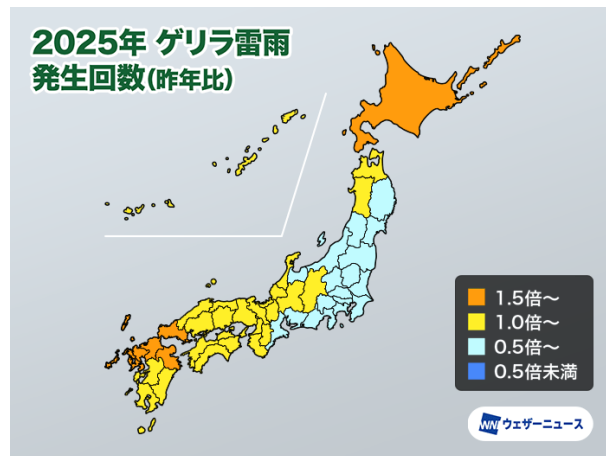
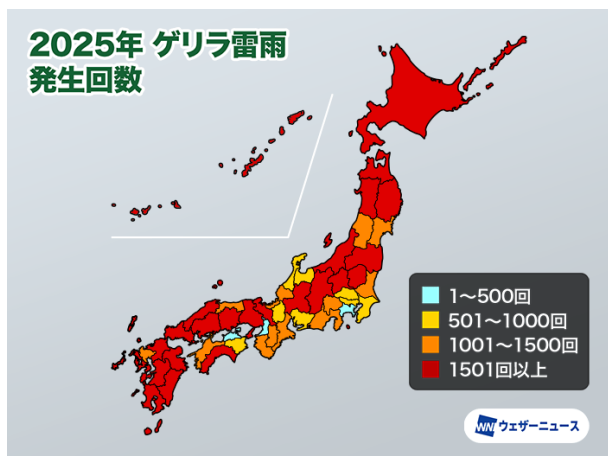
2025 年のゲリラ雷雨は全国で約 8.8 万回	ウェブ版プレスリリース(画像のダウンロードはこちら)
https://weathernews.jp/news/202510/220066/	https://jp.weathernews.com/news/53730/

【1】今夏のゲリラ雷雨の発生回数と特徴

◆ 発生回数:全国で合計 88,100 回発生

今年の夏(7 月 1 日～9 月 30 日)の全国のゲリラ雷雨の発生回数は合計 88,100 回で、昨年(78,945 回)と比べると 1.1 倍となり、やや増加したもののほぼ昨年並の発生数となりました。都道府県別の発生回数を昨年と比べると、東北から近畿、四国は昨年並のところが多く、北海道や中国、九州は昨年よりも多くなっています。

今年は西日本や東日本にかけて勢力の強い高気圧に覆われました。このため、顕著に発生回数が増えることはありませんでした。ただ、日中の昇温や複数の高気圧の間に入ったエリアでゲリラ雷雨が発生し、概ね昨年並、例年並の発生回数になりました。ゲリラ雷雨の発生回数が最も多くなった都道府県は北海道の 10,510 回(昨年 5,674 回)、次いで沖縄県の 7,339 回(昨年 6,965 回)となりました。今年の東京都は 770 回となり、昨年の 1,049 回からやや少ない発生回数となりました。勢力の強い高気圧に覆われてゲリラ雷雨発生が抑制されたため、ピークとなる 8 月は昨年比 0.6 倍と減少しています。



今年 7 月 1 日に発表した「ゲリラ雷雨傾向 2025」(※1)では、全国でおよそ 78,000 回発生する予想としており、概ね予想通りとなりました。月別でみると、予想よりも 7 月上旬の発生数が増加しました。これは西や東日本の梅

雨明けが早く、7 月早々にゲリラ雷雨が発生しやすかったためとみています。また、8 月中旬は高気圧が弱まるタイミングで発生数が増える予想でしたが、このタイミングで前線の影響を受けたため発生数が予想よりも減少しています。一方、9 月は前線の影響を受けるため、広域での雨に変わっていく見込みでしたが、上旬から中旬ほど大気の状態が不安定となり、ゲリラ雷雨が発生しやすくなりました。月別では多少の差があるものの、全体としては概ね予想通りの発生回数となっています。

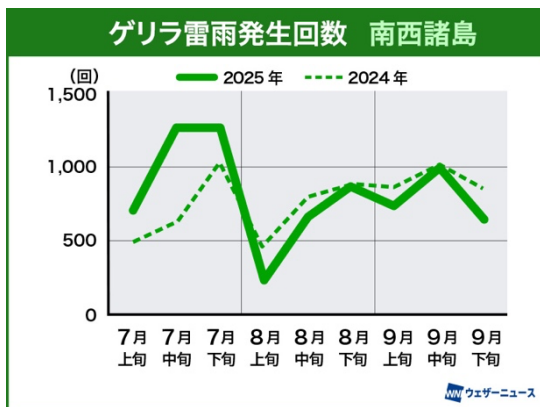
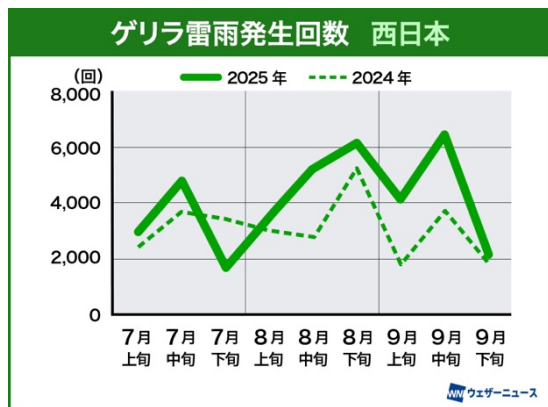
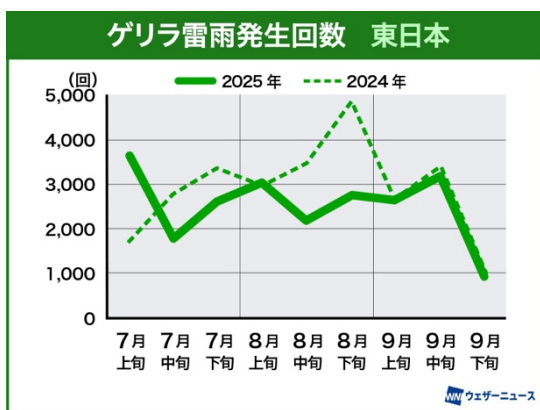
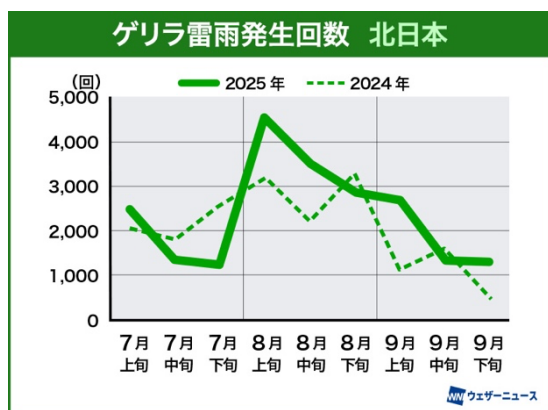
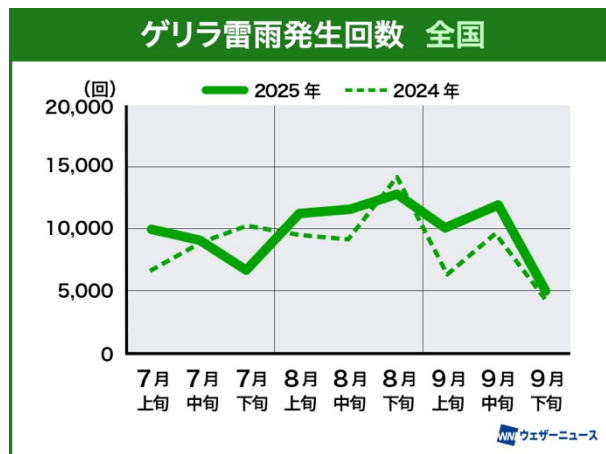
※1 2025 年 7 月発表 「2025 年のゲリラ雷雨は約 7.8 万回予想 8 月中旬がピーク」 <https://jp.weathernews.com/news/52925/>

◆ 発生時期:発生ピークは 8 月下旬

月別に見ると、全国のゲリラ雷雨の発生回数は、7 月に 25,664 回、8 月に 35,321 回、9 月には 27,115 回となりました。

ゲリラ雷雨が一番多かったのは 8 月下旬、次いで8月上旬と8月中旬、9月中旬となりました。それぞれ昨年の同時期と比べると、8月下旬は0.9倍となったものの、8月上旬や中旬、9月中旬は1.2～1.3倍程度となります。

エリア別で見ると、北日本は 8 月上旬にピークとなりました。東日本は7月上旬と9月中旬がピークとなり、西日本は8月下旬と9月中旬が発生のピークでした。



◆ 発生要因:記録的な猛暑と高気圧縁辺の湿った空気の影響で発生

今年のゲリラ雷雨の発生回数は、全国的に昨年比、例年比ともに 1.1 倍と概ね同程度となりました。

7 月は太平洋高気圧やチベット高気圧に覆われて、西日本や東日本を中心に晴天かつ気温の高い日が多くなりました。7 月上旬の発生回数が昨年よりも増加した要因は、例年 7 月中旬に梅雨明けとなる西日本や東日本で、今年は 6 月中に各地で梅雨明けとなったことや、高気圧に覆われて気温が上昇し、太平洋側を中心に大気の状態

態が不安定になったことが考えられます。7月下旬にかけては、2つの高気圧が勢力を強めたため、全国的なゲリラ雷雨発生回数が昨年よりも減少しました。

8月は高気圧が複数存在し、その高気圧の間に入ったエリアで大気の状態が不安定となりました。加えて、日中の昇温や西日本や東日本に接近した台風による暖かく湿った空気の影響も受けて、8月下旬ほどゲリラ雷雨の発生しやすい状況になりました。ただ、関東地方は8月中旬から下旬にかけて勢力の強い高気圧に覆われ続けたため、雲の発達を抑えられ、ゲリラ雷雨の発生は比較的抑制されたとみています。

9月も高気圧の影響が残り、日中は厳しい残暑が続きましたが、次第に高気圧と低気圧が交互に通過する気圧配置に変化しました。9月中旬に西日本や東日本では、気温の上昇や暖かく湿った空気の流入のタイミングでゲリラ雷雨が多く発生しました。特に関東地方では都心部で大雨となった日があり、記録的短時間大雨情報が発表され、新幹線や航空機などの交通機関にも影響が生じました。茨城県では突風による被害も報告されています。



◆ 参考資料：全国的なゲリラ雷雨多発日・影響の大きかった事例

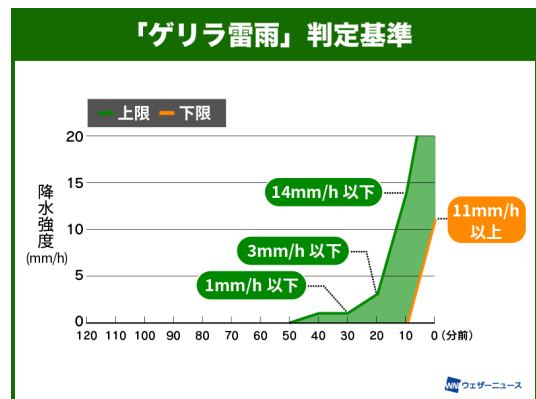
日付	発生回数	要因	備考
7月1日	856	上空寒気により不安定、地表の気温上昇や収束に伴い雨雲が発生	記録的短時間大雨情報（群馬県、茨城県、埼玉県）、ヒョウ（群馬県桐生市）、停電（茨城県）つくばエクスプレスが運転見合わせ
7月2日	1,210	上空寒気により不安定	記録的短時間大雨情報（北関東から東北南部、近畿地方）
7月4日	1,234	上層トラフ接近、中層の湿潤域の南下	記録的短時間大雨情報（群馬県）、道路冠水（長野県、東京都武蔵村山市）
7月10日	1,362	前線南下、日中昇温	記録的短時間大雨情報（東京都、神奈川県、埼玉県、群馬県、山形県、長野県）
7月22日	692	上空寒気により不安定、地上気温上昇	記録的短時間大雨情報（群馬県）、ヒョウ（埼玉県、長野県）
7月24日	875	上空寒気により不安定、地上気温上昇、地形性上昇	記録的短時間大雨情報（群馬県）、ヒョウ（岐阜県）
8月8日	1,812	寒気トラフの影響で不安定	記録的短時間大雨情報（秋田県）、道路冠水（東京都、栃木県、大阪府）、竜巻（石川県）、甲子園第三試合4回で中断
8月16日	1,220	地上気温上昇、下層シア	記録的短時間大雨情報（埼玉県、静岡県）
8月18日	860	前線帯や中層の水蒸気、風の収束	記録的短時間大雨情報（東京都）、ヒョウ（東京都）
8月20日	2,050	上空の寒気や下層の昇温で不安定、九州は熱帯擾乱や高気圧縁で暖湿気流入	ヒョウ（東京都多摩市）、冠水（福岡県）
8月25日	1,642	中下層の暖湿気や昇温	記録的短時間大雨情報（京都府、兵庫県）
8月27日	2,477	前線南下に伴う熱界雷	竜巻（新潟県）、ヒョウ（埼玉県）
9月2日	1,319	暖湿気の流入や地上気温上昇	記録的短時間大雨情報（兵庫県）、道路冠水（鳥取県）
9月3日	1,505	北海道：寒気トラフ・シア、本州：前線南下で熱界雷	記録的短時間大雨情報（栃木県）、竜巻（北海道宗谷地方）、ヒョウ（栃木県）、冠水多数
9月11日	1,957	水蒸気、地上気温上昇	記録的短時間大雨情報・ヒョウ（東京都、神奈川県）冠水（東京都、石川県）、ガストフロント（羽田空港）、東海道新幹線見合わせ

注 1. 「ゲリラ雷雨」について:本プレスリリースでは、「局地的大雨」を指す言葉として「ゲリラ雷雨」という言葉を使用しています。一般あるいはメディアでよく使用されている「ゲリラ豪雨」と同義です。

注 2. 「ゲリラ雷雨」発生回数の求め方:「ゲリラ雷雨」をもたらす雨雲・雷雲は“突発的”かつ“局地的”に発達するのが特徴で、予測が難しいとされてきました。また、限られた数しか設置されていないアメダス(全国約 1,300 か所)では、全ての降雨を正確に観測することは困難です。そこで当社では、スマホアプリ「ウェザーニュース」のユーザーから寄せられた“ザーザー”以上の降雨報告(注 3)と、その時の気象データの分析結果から、ユーザーがゲリラ雷雨と感じる雨の時間変化の基準値(表 1)を求め、求めた基準値をもとにゲリラ雷雨をカウントしています。

時間(分前)	閾値
0	11mm/h 以上
10	14mm/h 以下
20	3mm/h 以下
30～40	1mm/h 以下
50～120	0mm/h 以下

表 1:「ゲリラ雷雨」判定基準



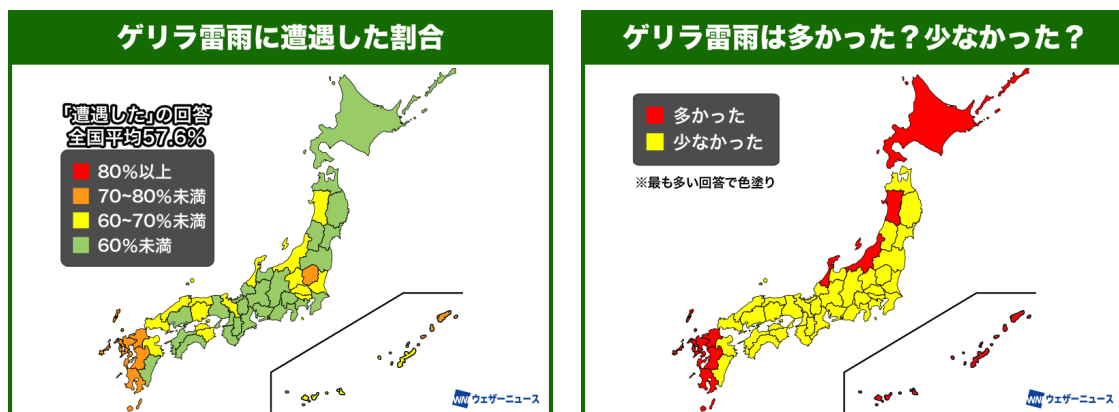
注 3. 降雨報告について:スマホアプリ「ウェザーニュース」を通し、“ポツポツ”、“パラパラ”、“サー”、“ザーザー”、“ゴォー”の 5 段階で報告されます。

注 4. 雷回数の求め方:気象庁の雷監視システムライデン(LIDEN:Lightning DEtection Network system)によって検知された雷回数をカウントしています。

【2】2025 年「ゲリラ雷雨まとめ調査」結果

10 月 1 日～10 月 14 日にスマホアプリ「ウェザーニュース」を通じて、2025 年のゲリラ雷雨を振り返る質問をし、全国 65,304 人の方々から回答をいただきました。

◆ 2 人に 1 人がゲリラ雷雨に遭遇



「この夏、ゲリラ雷雨に遭遇した？(屋内で降られた場合も含む)」と質問したところ、「遭遇した」と回答した方は 57.6%と、昨年(72.0%)よりも減少し、約半数の方がゲリラ雷雨に遭遇した結果になりました。遭遇率が最も高かったのは、福岡県で 76.3%でした。

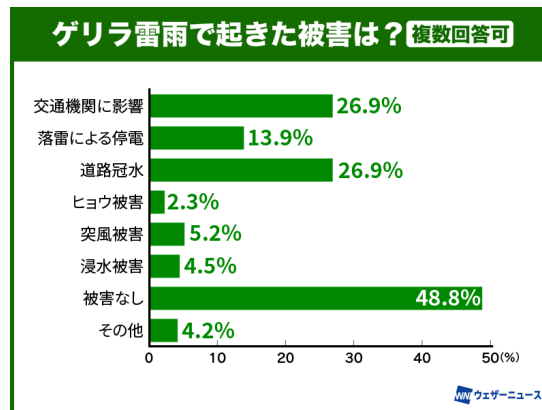
ゲリラ雷雨の印象について「この夏、ゲリラ雷雨は多かった？少なかった？」と質問したところ、ほとんどの地域で「少なかった」が多数派となる中、九州や北陸では「多かった」が多数派でした。多かった印象 1 位は長崎県で 53.2%、2 位は鹿児島県で 49.9%など九州が上位となっています。

今年の発生数は東日本で昨年より減少した一方、西日本や北海道で昨年より増加し、特に九州で発生数が昨年比で 1.48 倍となったためゲリラ雷雨の印象に地域差が生じたと考えられます。

◆ 2人に1人がゲリラ雷雨の被害 今年は道路冠水が増加

「ゲリラ雷雨に遭遇した」と回答した方に、「ゲリラ雷雨で起きた被害は？」と質問したところ、半数以上(51.2%)の方が何かしらの被害にあったと回答しました。

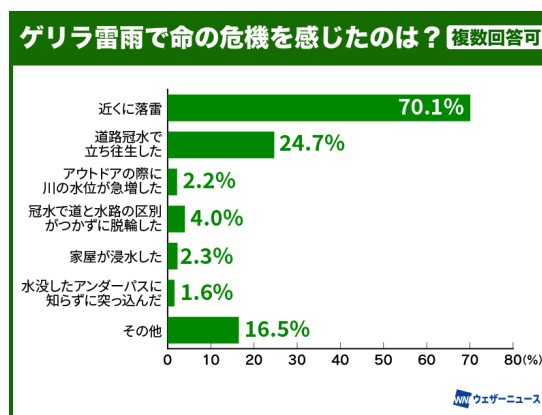
具体的な被害の内容を複数回答で伺ったところ、一番多かったのが「交通機関に影響」と「道路冠水」で 26.9%、その次に「落雷による停電」が 13.9%という結果になりました。例年の調査では、「交通機関に影響」が圧倒的に多い結果となっていますが、今年は「道路冠水」が 2018 年以来で最も多く、「交通機関に影響」と同率となっています。



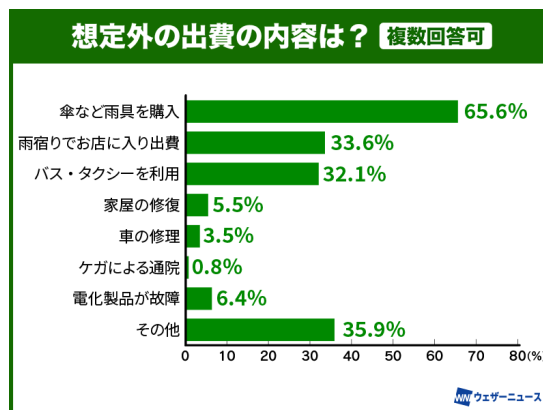
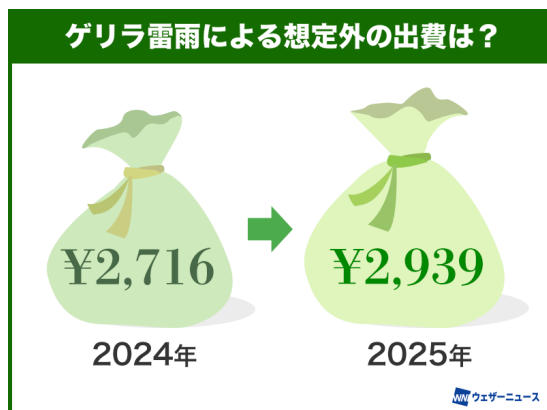
◆ ゲリラ雷雨によって命の危機、約7割が「近くに落雷」で感じた

「ゲリラ雷雨に遭遇した」と回答した方に、「ゲリラ雷雨によって命の危機を感じた？」と質問したところ、16.5%が命の危機を「感じた」と回答しました。

どんな危機だったかを具体的に伺ったところ、「近くに落雷」が最も多く 70.1%、次いで「道路冠水で立ち往生した」が 24.7%となりました。実際の雷回数を調べてみると、今年の夏、北海道では雷回数が昨年の約 3.47 倍となる 16,397 回、九州では 1.30 倍となる 194,514 回となりました。このため、落雷によって命の危機を感じる人が多かったと考えられます。

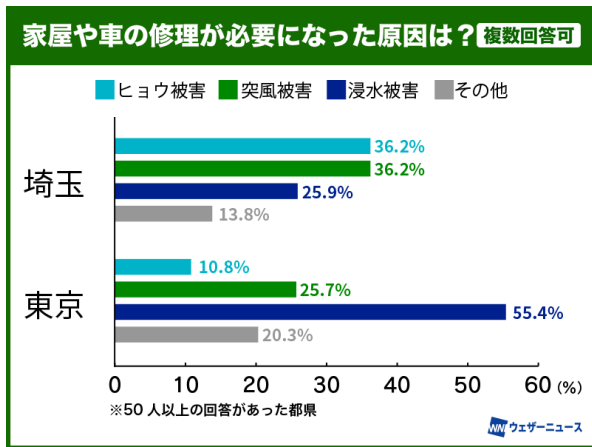


◆ 出費額は過去最高 東京都では浸水被害による家屋の修復や車の修理も



「ゲリラ雷雨に遭遇した」と回答した方に、「この夏、ゲリラ雷雨による想定外の出費は？」と質問したところ、23.1%の方が何らかの出費があったと回答しました。出費額は全国平均で 2,939 円となり、昨年の 2,716 円から 223 円増加し、2018 年以降の 8 年間で最も高額になりました。具体的な出費の内容を複数回答で伺ったところ、「傘など雨具の購入」が 65.6%と一番多く、出費の内訳に大きな地域差は見られませんでした。

金額が大きくなりがちな「家屋の修復」「車の修理」と回答した方に、修復や修理が必要となった原因について複数回答で伺ったところ、「浸水被害」が 42.9%と最も多く、次いで「突風被害」が 25.3%という結果になりました。また 50 人以上の回答があった地域に絞ると、東京都では「浸水被害」が 55.4%と最も多く、埼玉県では「ヒョウ被害」「突風被害」が 36.2%となりました。



2025年8月18日埼玉県鴻巣市
降雹レポート



2025年9月11日東京都大田区
冠水レポート

今シーズンはゲリラ雷雨の発生回数は概ね昨年並になりましたが、被害を受けた方の想定外の出費額は昨年を上回りました。全国的には突発的な雨により傘など雨具の購入した方が多く、ヒョウや突風などシビアな現象に加えて、浸水などの被害が相次ぎました。ウェザーニューズでは、ゲリラ雷雨による被害を少しでも減らすため、本調査結果を今後の対策に活かしてまいります。

◆ 参考情報：都道府県別ゲリラ雷雨発生回数 ※集計期間：7月1日～9月30日

都道府県	2025 年				2024 年 (回)	過去 5 年平均 (回)
	発生回数 (回)	10km 四方ごとの 発生回数(回)	2024 年比(倍)	過去 5 年平均比(倍)		
北海道	10,510	11	1.9	1.59	5,674	6,629
青森県	1,621	16	1.4	1.40	1,180	1,157
秋田県	1,762	15	1.0	0.95	1,816	1,847
岩手県	1,830	11	0.8	0.82	2,430	2,221
山形県	1,485	16	0.9	0.95	1,727	1,567
宮城県	1,016	14	0.7	0.86	1,446	1,180
福島県	2,937	21	0.8	0.98	3,813	3,004
茨城県	1,001	17	0.8	1.02	1,257	977
栃木県	1,734	27	0.8	1.06	2,108	1,635
群馬県	1,662	27	0.8	1.09	2,000	1,526
千葉県	802	16	0.8	0.84	1,019	957
東京都	770	44	0.7	0.69	1,049	1,109
埼玉県	777	21	0.9	1.17	891	664
神奈川県	292	11	0.5	0.60	579	487
山梨県	1,044	25	0.9	1.25	1,140	835
長野県	3,173	24	1.0	1.12	3,105	2,825
静岡県	1,207	16	0.6	0.66	2,029	1,836
愛知県	912	18	0.6	0.65	1,406	1,402
岐阜県	2,632	26	1.0	0.97	2,659	2,722
三重県	1,407	25	0.9	0.91	1,519	1,539
新潟県	2,414	18	0.9	0.98	2,667	2,462
富山県	946	22	0.9	0.95	1,033	994
石川県	967	23	1.1	1.03	907	935
福井県	1,100	25	1.2	1.20	887	918
滋賀県	987	26	1.1	1.14	859	864
京都府	1,554	34	1.4	1.37	1,144	1,138
奈良県	1,324	38	1.2	1.18	1,151	1,124
兵庫県	2,123	26	1.3	1.23	1,651	1,724
大阪府	401	21	1.1	0.90	376	445
和歌山県	1,031	22	1.0	0.88	1,060	1,165
鳥取県	1,052	30	1.1	1.14	943	924
島根県	1,815	27	1.3	1.21	1,417	1,502
岡山県	1,883	27	1.3	1.34	1,412	1,407

広島県	2,110	25	1.4	1.20	1,551	1,759
山口県	1,619	26	1.6	1.18	1,011	1,367
香川県	386	18	1.2	0.99	318	390
徳島県	986	24	1.2	1.19	816	829
愛媛県	1,161	20	1.0	0.87	1,135	1,330
高知県	2,058	30	1.1	1.18	1,796	1,739
福岡県	2,155	43	1.6	1.39	1,361	1,548
大分県	1,873	30	1.6	1.46	1,194	1,282
佐賀県	1,024	43	1.7	1.54	607	667
長崎県	2,468	79	2.2	1.55	1,110	1,590
熊本県	2,451	34	1.3	1.29	1,839	1,902
宮崎県	2,821	39	1.4	1.36	1,961	2,069
鹿児島県	3,478	51	1.2	1.15	2,927	3,034
沖縄県	7,339	271	1.1	1.25	6,965	5,894
全国(合計)	88,100	—	1.1	1.14	78,945	77,121